

# 五感で学ぶサステナブルフィールド

さんともこんじゃくむら

## 三富今昔村 - 石坂産業株式会社の里山再生 -

都心から車で1時間ほどの埼玉県三芳町に、「五感で学べるサステナブルフィールド」をコンセプトとした体験型環境教育施設「三富今昔村」がある。東京ドーム約4個分にもなる広大な敷地内には、アスレチックやミニSLのほか、村内の農園「石坂オーガニックファーム」で育てた有機野菜を提供するカフェレストラン、また、ドームテントやバーベキュー、ファイヤーサークルなど、里山の新たな魅力を発見できるメニューが盛りだくさん。四季折々のさまざまな体験プログラムも用意され、豊かな自然のなかで大人も子どもも学びながら楽しむことができる。

最近では親子で気軽に遊べる場所や自然が減少し、地域との関わりや地域固有の歴史・文化へのふれあいも希薄になるなか、三富地域と呼ばれるこの地域の歴史や文化、今と昔の魅力を発信する「三富今昔村」について紹介する。

### 自然と共生する暮らしを五感で学ぶ

埼玉県三芳町にサステナブルフィールド「三富今昔村」がオープンしたのは2013年9月。「にほんの里100選」（森林文化協会）にも選ばれた三富新田の中で、1日では足りないくらいの見学や体験ができるスポットがたくさんあり、子どもに高い人気を誇るアスレチックや太陽光で走るミニSL、落ち葉の発酵熱を利用した足湯、デイキャンプ、ファイヤーサークルなど、バラエティーに富んだ体験施設が点在している。春には桜や新緑、夏にはやまゆりが咲き誇り、秋には落ち葉が色づき、その落ち葉は堆肥となって次の年の豊かな実りを感じることができる。自然との共生を学べるさま

ざまな環境教育プログラムや、村内の農園で採れる季節の野菜の収穫体験なども用意され、旬や地産地消にこだわったレストラン・カフェも人気だ。

この施設を運営しているのは、創業から50年以上、この地で産業廃棄物処理を手掛けている石坂産業株式会社。廃棄物を焼却するのではなく、高い技術力で徹底的に分別し、環境に配慮したリサイクル事業を展開している。専務の石坂知子さんは、「季節がめぐり循環する自然を、五感すべてを使って体感し、学ぶことができる場所。それが、三富今昔村です。」と語る。

埼玉県からは、環境保全の意欲増進につながる「体験の機会のある場」の認定を県内で唯一受けており、また、三芳町とは地域振興の包括協定を締結し、



愛犬と楽しめるデイキャンプ



冬季限定イベントが人気の「ファイヤーサークル」





太陽光で走る「やまゆり鉄道」

親子体験プログラムや環境イベント等相互協力の関係を築いている。地域の保育園、幼稚園の遠足利用や、地元小・中学校 10 校からは環境教育を請け負う一方、ベビーカーを押したママ友や地域住民の気軽な集まりにも利用され、自然の中で交流する憩いの場としても愛されている。来場者からは「子どもを自然の中でのびのびと遊び楽しませることができ良かった」「今後も四季を通じて自然を楽しませたい」といった声が多く、口コミで徐々に広がっていき、昨年のコロナ禍においても、年間来村者数は 5 万人を超えている。石坂専務は「昨今、世の中にはバーチャルが増えてきていますが、リアルな体験として自然に触れてもらいたいです。ここを訪れた人が、環境について考えるきっかけをつかんでもらえれば。」と話す。

### 三富新田の景観、文化を未来に残したい

三富地域は、江戸時代に 5 代将軍徳川綱吉の側用人で、川越藩主だった柳沢吉保が開墾した「三富新田」と名付けられた農村の景観と文化が出発点。1962 年には旧跡として埼玉県指定文化財に指定され、「三富開拓地割遺跡」として、その保存がはかられてきたものの、近年は人の手入れが行き届かないうっそうとした森に変わってしまい、いつしか放置林としてゴミの不法投棄の場と化していた。

2013 年に父親から二代目社長として引き継いだ石坂典子社長は、従来の産廃業者のイメージを払拭し、地域に愛される会社になるという目標を掲げ、里山再生をはじめとした CSR の実践に着手

した。三富新田に囲まれた地を未来に伝えていくため、まずは施設周辺のゴミ拾いのボランティアからスタートし、その後十数年にわたり里山保全活動を行ってきた。自社プラント周辺の平地林を購入し、20 名以上の地権者からも土地を借り受け、維持管理を受託。森を整備し、植林して里山を再生させた。保全管理手法の開発にも取り組み、2012 年には財団法人日本生態系協会が生物多様性を評価する「JHEP 認証」で、最高ランク "AAA" を取得。また、経済産業省「2012 年度おもてなし経営企業」にも選ばれ、地域貢献に徹した取り組みが高く評価された。「美しい里山を後世に残していくことが私たちの使命なんです。」と石坂専務。地域住民がもっと楽しめる場所を提供していきたいとの考えから、広大な敷地内に三富の歴史と文化を体感できる施設「三富今昔村」を開設することとなった。

### 入村することが里山の保全につながる

メインゲートであるレストランやオリジナル商品のショップが入った「くぬぎの森 交流プラザ」は、埼玉県産のケヤキ材を使用し昔ながらの宮造り工法で建てられ、かつて所沢周辺で盛んであった養蚕農家を復元した建物となっている。建物だけでも一見の価値があり、地域住民が集うコミュニティスペースや休憩場所としても利用されている。

入村の際には、大人 (18 歳以上) のみ里山保全費を支払い、初めての入村の場合には 1 グループで 1 冊「三富今昔村 入村 BOOK (200 円)」の購入が必要となる。この冊子には村の成り立ちや里



くぬぎの森 交流プラザ

山で楽しむためのルールが、美しい写真やイラストとともに綴られている。ここで支払った金額は、すべて里山を美しく健全に保全するために使われるため、入村することが里山の森を育てることにつながっている。ペットボトルの廃棄を減らすため自販機での飲料販売は行っておらず、ゴミの行方を考えてもらうきっかけとして、あえてゴミ箱も設置せず、ゴミは各自持ち帰るのがルールとなっ

ている。より深く里山の魅力を知りたい人に向けては、案内人によるガイドウォークで、自然環境の大切さを知ってもらえるような環境体験プログラムが提供されている。

村内は、<sup>カゼ アカリ デン ハククミ ムスビ ヒカリ カオリ ツドイ ナゴミ</sup>風・陽・伝・育・結・光・香・集・和と名付けられた9つのエリアに分かれている。各エリアには、散策路が整備され、自然の恵みや昔の文化・知恵に楽しく接することのできる設備や、





里山を活かした環境教育体験プログラムにより、さまざまな世代が遊び学べる空間となっている。「人と自然と技術の共生」を目指し、生物多様性の雑木林を復元した「くぬぎの森」には、1,300種以上の動植物が生息しており、里山の必要性や重要性を再認識できる。

村内の畑では、落ち葉堆肥農法で多品種少量の野菜・果物が作付けされ、農園の一部は農業体験の場としても活用されている。大根やサツマイモ・ニンジン・小麦・大麦・サトイモなどのほか、梅・桃・ぶどう・ブルーベリー・あんずなどが収穫され、村内のレストラン・カフェで食材として提供されるほか、特産品としてショップでの販売も行っている。野菜作りの手間を体感できるプログラムや、畑から食卓までのつながりを学べるベジタブルスクールを開催し、農業の理解を深める農食育までプログラムが充実している。

また、家畜として飼育されている鶏は、ストレスの少ない環境で育てる「アニマルウェルフェア」にのっとった「平飼い」をしている。平飼いとは鶏が自由に動き回れるようにして飼育する方法を指し、太陽の光と風の入る鶏舎で、ゆったりと飼育されている。オーガニックのハーブや野菜など、安心安全なエサのみを食べて育った鶏たちは、毎朝栄養たっぷりの卵を産んでくれるという。鶏糞は里山の落ち葉と混合し、農作物を育てる際の堆肥として用いられ、徹底した「循環農法」を実現している。

### 食や健康をテーマにさらなる発展を目指す

石坂産業は、「自然と美しく生きる」をスローガンに掲げ、100年先も人と自然が共存できる社会を目指している。地域住民だけではなく、全国の小中学校の社会科見学や企業・団体の研修のためなどにも施設を開放し、「三富今昔村」をより多くの方に利用してもらいながら、さらなるコミュニティの場として100年先を見据えた施設に育てていく計画だ。

「私たちは三富今昔村の運営を通して、里山保全などの社会貢献につながる活動を多くの方々に

訴求しながら、同時に企業も成長させる“コース・リレーテッド・マーケティング(CRM)”の実践を目指しています。私たちの主業である廃棄物リサイクル業はB to B事業であるため、B to Cである三富今昔村の運営は一見親和性が無さそうに思えますが、実は関係しているところがたくさんあります。」と執行役員で経営企画室長の熊谷豊さんは語る。最近では、環境を守る仕事がしたい、里山を紹介する仕事がしたいという若い社員の採用も増え、社員一人ひとりが自社の価値観に誇りを持って働いてもらえるようになり、勤務意欲の向上にもつながっているとのこと。

石坂専務は「今後はさらにこの三富地区の価値を高めていきたいと考えています。」と将来の展望を話す。具体的には、食のコミュニティを創造するシェア農園や農園カフェ、また、健康をテーマにした大人の癒しの場となる日帰り温浴事業などを新たに検討している。「里山を介して単に楽しんでもらうだけではなく、いろいろな方たちに新たな体験を提供し、交流を深めることができると考えています。循環型経済(サーキュラーエコノミー)を作っていくことが私たちのビジョンであり、その原点になるのがこの里山です。三富今昔村という価値に共感してもらい、そのサービスやモノを利用してもらうことが大事。絶えずお客様の声に耳を傾け、常に新たな価値を提供していきたいと考えています。この取り組みに終わりはありません。」と力を込める。三富今昔村の今後の展開から目が離せない。

#### ■三富今昔村 概要

住 所：埼玉県入間郡三芳町上富 1589-2

開村時間：10：00～17：00

休 村 日：1～6月、9～12月：火曜日

※ 火曜日が祝日の場合は翌水曜日が休村日となります。  
その他休村日については、HP「開村カレンダー」をご確認ください。

電 話：049-259-6565

<https://santome-community.com/>